



人権だより

愛媛県立東予高等学校

東予総合高等学校

令和8年度 第1号

東予高校と東予総合高校、二つの学校での生活が始まって早くも1学期が終わろうとしています。皆さんそれぞれの「わくわく」を見つけることはできましたか？

今年度最初の人権だよりでは、6月18日（木）に行われた人権・同和教育ホームルーム活動の各クラスのテーマ紹介と3年生人権委員のメッセージを紹介します。

○人権・同和教育ホームルーム活動テーマ紹介

1 年	1組	よりよい人間関係をつくろう ～みんなが幸せに過ごせる社会のために～
	2組	言葉の大切さ ～人間コピー機～
	3組	よりよい人間関係を築こう –ことばの持つちから–
	4組	よりよい人間関係を作ろう –「ちがい」を認め合う–
	5組	よりよい人間関係をつくろう
	6組	よりよい人間関係をつくろう
2 年	M	部落差別の起こりを学ぶ
	R	部落差別の起こりを学ぼう ～もののけ姫から学ぶ～
	B	差別について知ろう！！ 人が言われてイヤなこととうれしいこと
3 年	M	就職差別 （本校の差別事件について）
	R	確かな進路保障を目指して
	B	就職差別をなくそう <確かな進路保障のために>

○人権委員メッセージ

私は今までいろいろな差別について学んできましたが、それはだいたい昔のことで、何となく「自分事になることはないだろう」と思っていました。でも、今回勉強した就職差別は、実際に東予高校でも起こっていて、自分も就職するので、より身近に真剣に考えることができ、差別に直面したときにどう行動すればいいかということも知ることができました。

差別は知ることだけでなく、考えて行動することが大切だと思うので、これからもそのような心掛けを続けたいです。(M3 福田 陽向)

私には人権委員として大切にしたいと思っていますことがあります。それは、一人一人を尊重し、誰もが安心して楽しいと思えるような環境を作ることです。

学校では性格や考え方、見た目、得意なことなど、一人一人違いがあります。しかし、その違いを人を傷つけたり仲間外れにしたりする理由にしてはいけません。相手の気持ちを考えて寄り添い合うことが人権を守る第一歩だと思います。今はインターネットやSNSで人を傷つけることができます。顔が見えない相手だからいいとかそんなことは関係ありません。自分が言われて嫌なことは書かないし、広めないという意識を持つ必要があります。

私は、人権委員長として困っている人や悩んでいる人に気づき、声を掛け、守ってあげられるような存在になりたいです。また、いじめや差別を見て見ぬふりをせず、「それは違う」や「それはダメ」などと勇気を持って行動することも大切だと思います。決して大きなことをする必要はありません。挨拶をし、話を聞いて相手を認める言葉を掛けてあげるだけで人権を守る行動の第一歩になります。

私は、人権とは特別な人だけのものではなく、誰もが持っている大切なものだと思います。人権を守るためには、一人一人が相手を思いやる気持ち、行動することが大切です。みんなが楽しい、おもしろいと思えるような学校づくりを協力して実現していきましょう。

(R3 佐伯 春道 (人権委員長))

人権・同和教育ホームルーム活動で就職差別について学びました。私は、面接で本人の能力や意欲とは関係のない家族構成や出身地といった個人情報を聞いてはいけないことを知りました。これまでは、面接でそのような質問をされることが差別につながるとは考えたことがありませんでしたが、誰もが公平に就職の機会を得られることは人権を守ることににとってとても大切なことだと感じました。

これからは、相手のことを決めつけたり偏見を持ったりせず、一人一人を尊重して接することを心掛けたいです。(B3 曾我部 晴琉)

編集後記

夏休みには、楽しいイベントもたくさん待っている人も少なくないと思います。また、ボランティア活動やチャリティ活動もいろんなところで目にすることでしょう。誰かが楽しむためには見えるところ、見えないところで誰かが支えてくれているものです。「楽しむ側」だけでなく、ちょっとだけ「楽しませる側」にも目を向けて、誰かのために汗を流す尊さに触れる夏にしてください。